

## 4 大粒の黒大豆をたくさん穫るために生育目標を持とう

### ねらいと成果

本県の特産物、黒大豆は極大粒が珍重され、高値で取引されている。しかし、極大粒とされる2L以上の子実（篩径10.0mm以上）が収穫物に占める率（以下「2L以上率」）は20～40%程度であり、さらに高めるための技術が求められている。一方、70%以上の2L以上率をあげている農家も存在するため、栽培技術の改善による2L率向上は可能と考えられる。その改善方策策定にあたり、まず目標とするべき生育項目、生育値を明らかにする必要がある。そこで、当センターのほ場試験結果から、収量、2L以上率に及ぼす生育の影響を調査検討し、2L以上率を向上させるのに望ましい生育指標を作成した。

収量25kg/a、2L以上率70%以上を得るための生育指標として、主茎節数17節、250莢/m<sup>2</sup>（栽植密度2.0～2.5株/m<sup>2</sup>）を提案する。

### 内容

図1に莢数と2L以上率の関係を示す。従来、莢数が増えると小粒化し、2L以上率が低下すると考えられてきたが、実際には、莢数が増えても2L以上率は高率を維持したまま低下していなかった。図1では、250莢/m<sup>2</sup>でほぼ2L率70%以上に達すると見込まれることから、250莢/m<sup>2</sup>を目標莢数に設定した。

図2に莢数と収量の関係を示す。莢数と収量は右肩上がりの直線関係にあった。すなわち、莢数が増加すると増収する関係があり、莢数250莢/m<sup>2</sup>の場合、収量25kg/aが可能であることが分かった。また、莢数と主茎節数の相関も高く、莢数を250莢/m<sup>2</sup>確保するためには、17節が必要であった（データ省略）。

これらのことから、開花期までに17節の生育を確保すること、開花期以降は外的要因による莢数の減少を防ぎ着莢数を確保することにより25kg/a、2L以上率70%を達成できると考えられた。

### 今後の方針

生育目標を達成するための栽培体系の確立に向けて、栽植密度、初期病害虫防除、莢数を増やすための垂りん酸資材の施用法などについて、効果確認試験を実施中である。

澤田 富雄（北部農技 農業・加工流通部）  
（問い合わせ先 電話：079 - 674 - 1230）

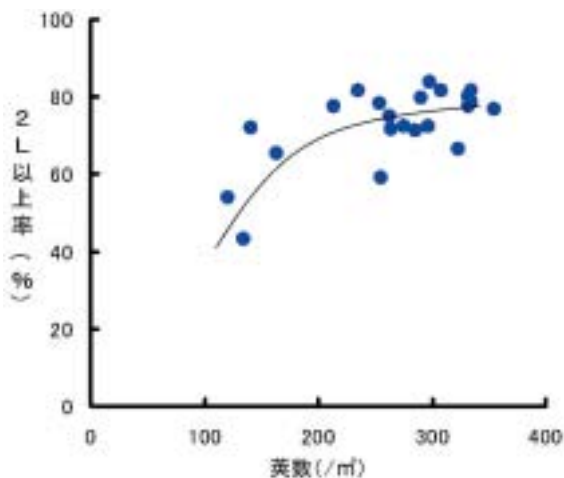
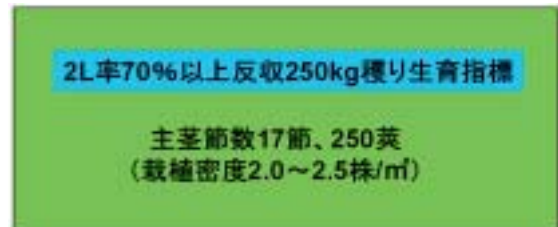


図1 莢数と2L以上率との関係

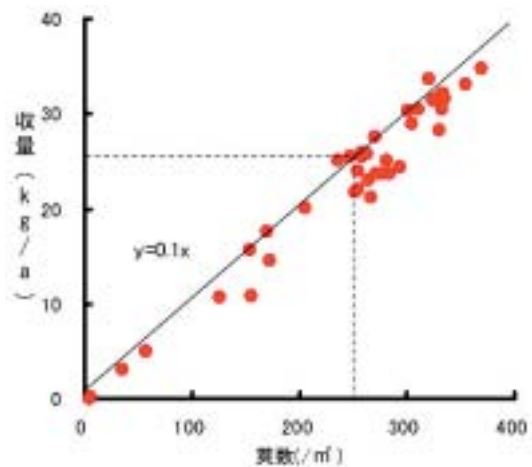


図2 莢数と収量の関係